

桜土手古墳展示館平成 25 年度 秋季特別展  
**秦野の原像-VIII 寺山・寺山金目原遺跡**

平成 25 年 11 月 1 日(金)~12 月 15 日(日)



寺山金目原遺跡 9904 地点出土 人面文付土器 (縄紋中期)

### 人面文付土器

寺山金目原遺跡 9904 地点からは縄紋時代中期末の土器に人面文を付したものが出土しています。

破片資料であるのが残念ですが、橋状突起部分に目尻の下がった鼻の大きな顔が作り出されています。鼻の大きい点は、この後に盛行する筒形土偶やハート形土偶にも共通していますが、この人面文に特徴的なのは口が表現されていない事で、「言葉を話す」

「息をする」という行為を否定しているかのように感じられます。そうすると、この顔は生きている人間を表現したものではない事になります。埋葬に関連して作られた土器だったのでしょうか。

いずれにしるこの時期は土偶などもあまり作られない時期で、類例の少ない貴重な縄紋人の自画像と言えるでしょう。

## はじめに



「寺山遺跡」と「寺山金目原遺跡」は、金目川左岸の標高 170～180m の金目台地上に位置する縄紋時代の遺跡です。遺跡分布地図の上では市道 5 号線で便宜的に分けられているものの、両遺跡は本来一体をなすものと考えられ、今回の展示では両者をまとめて取り扱うこととします。

この両遺跡の範囲内には市立東小学校、東中学校、秦野市農業組合東支所などが建てられていますが、これらの施設の建て替えなどによって縄紋時代後期の土坑墓群や、敷石住居址などが検出され、注目を集めました。

今回の特別展では、平成 24 年 3 月に刊行された発掘調査報告書に掲載された出土遺物を中心に両遺跡の遺物を展示し、今から 4000 年ほど昔に丹沢山麓に生きた縄紋人の生活を紹介します。

## 秦野地域初の保存運動

大正 12 (1923) 年、それまでの畦道を改め、後に市道 5 号線となる道路掘削を行ったところ、南側切取面に自然石の立石が露出しました。この周辺

からは、古くから石器時代の遺物が出土しており、武新次郎や高橋文次郎といった遺物採集の趣味のある地元人士らが注目していました。

昭和 10 (1935) 年 8 月 30 日、考古資料採集家として有名であった森照吉の案内で、東京帝国大学の大学院生、矢島榮一が寺山の地を訪れます。矢島は、高橋文次郎から先の立石を示され「之を掘下げれば必ず土器あり、内に骨様のものを存すならん」との示唆を受け、部分的発掘を行いました。この立石が縄紋時代の配石遺構であることを確認した矢島は一旦帰京し、東京帝国大学人類学教室助手の八幡一郎に諮り、教室主任の松村瞭助教授の斡旋で発掘の手はずを整えます。しかし、武新次郎ら地元の人々は、この遺構の保存の意向を持っていました。

このため、神奈川縣史蹟名勝天然記



念物調査会委員、石野瑛（あきら）が調査に立ち会うこととなり、「配石を動かさない」という条件付で発掘が行なわれました。この調査は当時『横濱貿易新報』（のちの『神奈川新聞』）紙上にも掲載され、地元の大きな話題となったようです。



この遺構については、上述の理由により敷石面下部の調査がなされていませんが、立石の北東の配石下から後期前葉の土器が検出されており、同時期のものと考えるのが妥当でしょう。

調査終了後、この遺構はしばらく見学可能な状態で残されていましたが、神奈川県による史跡指定がされないまま、戦中戦後の混乱期に消滅してしまいます。調査の結果は『人類学雑誌』誌上に発表されたほか、前出の石野の著書にも記述があり、詳細に遺構の様子を知る事ができるのが救いです。

このように、結果的には史跡指定には至りませんでした。寺山金目原遺跡は秦野市域で最初に遺跡保存の動きがみられたという点で、重要な意義を持つ遺跡です。

## 出土した遺構・遺物

昭和 39 (1964) 年に東中学校校庭拡幅に伴って実施された寺山遺跡の発掘調査では、4軒の住居のほか、先

の寺山金目原遺跡同様、縄紋時代後期前葉の配石等が検出されています。この後も東小学校校舎の建て替えなどにより本格調査が実施されており、多くの遺構遺物が検出されています。

今回の展示では、東小学校プール建設に伴う寺山遺跡 9504 地点、道路拡幅工事に伴う寺山金目原遺跡 9608 地点、作業所建設に伴う寺山金目原 9701 地点、鉄塔建設に伴う寺山金目原 9804 地点、秦野市農業協同組合東支所建設に伴う寺山金目原 9904 地点の発掘調査の成果を中心として取扱っています。

寺山・寺山金目原遺跡から出土した遺構や遺物は、縄紋時代中期後葉と後期前葉に集中しています。この時期は全国的に見ても温暖な気候で、木の実などの植物性の食糧が豊富であったと考えられています。人々は条件の良い場所に定住し、採集を中心とした生活を行ったと考えられています。

寺山・金目原遺跡からは、堅果類をすりつぶすための石皿や叩き石、多孔石といった石器が数多く出土しているほか、自然の生産力への信仰を示すように男性の生殖器をシンボライズ



寺山金目原遺跡 9904 地点出土多孔石

した石棒という石器の出土が目立つことが古くから指摘されています。



また後期前葉には、小型の精製土器や磨石を副葬品として収めた土壇墓群が集落の一角に造られます。

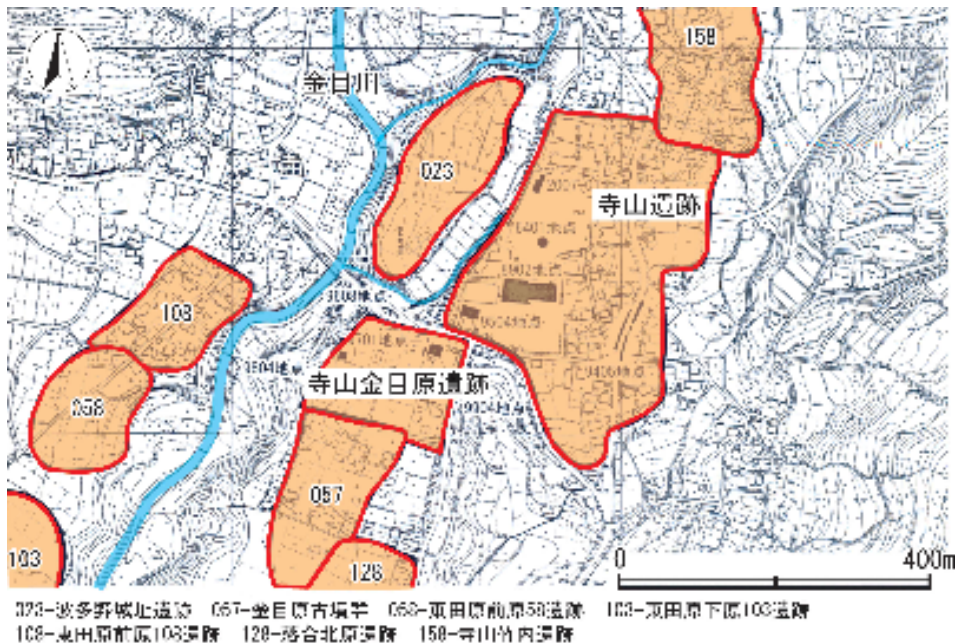
しかし、この後、唐突に集落は衰退し、後期中葉以降は土器片がわずかに検出されるに止まっています。こうし

た状況は神奈川県内に共通して見られ、その原因として、気候の寒冷化や自然災害などが挙げられています。

## おわりに

縄紋人は、私たちとは全く異なる文化や価値観の中に生きた人びとです。何千年もの時が過ぎた現代に発掘された遺構遺物は、彼等の確かないぶきを感じさせてくれます。

悠久の歴史の中で連綿として繰り返されてきた人の営みの中にこそ、私たちが学ぶべき大切なものが隠されているのではないのでしょうか。



寺山・寺山金目原遺跡周辺遺跡地図

秦野の原像-VIII 寺山・寺山金目原遺跡 〒259-1304 神奈川県秦野市 380-3  
発行 平成 25 年 11 月 1 日 Tel. 0463-87-5542  
編集 秦野市立桜土手古墳展示館 FAX 0463-87-5794